



井伊直虎



「次郎法師と虎松」©光山房

井伊直虎は、井伊谷城主である22代直盛の一人娘として誕生。直盛には男児がなく、従兄弟の直親を娘の許嫁として家督を継がせる予定でした。ところが直親の父親が今川義元に殺され、命を狙われた直親は信州に身を隠すことになります。幼き直虎は直親が死んだと思い込み、自ら出家し次郎法師と名乗り、生涯未婚を通しました。

その後成人した直親は井伊谷に戻りましたが、直盛の戦死により23代当主となったものの殺害され、井伊家は存亡の危機に直面しました。龍潭寺の南溪和尚の計らいもあり、1565年、次郎法師は井伊直虎と名乗り、直親の遺児である5歳の虎松(24代直政)の後見人として、政治手腕を発揮し、井伊家を支えました。

直虎は1575年、15歳に成長した直政を、浜松城主の徳川家康に出仕させ、見事に井伊家の再興を果たしました。

資料提供：公益財団法人浜松観光コンベンションビューロー

